



子ども大学学生新聞

第17号
子ども大学
かわごえ新聞部

からだをどう使うの不思議な関係

9月20日 川田先生にスポーツ心理学を学ぶ

九月二十日(土)、東京国際大学第二キャンパスで東京未来大学・川田裕次郎教授の「スポーツ心理学」の講義がありました。参加者は学生一〇三名、内わけは四年生三四名、五年生二七名、六年生四二名、保護者四二名、兄弟六名でした。一時間目は「運動神経って何?」ということについて考えました。そこでまず運動神経がいい人の持ちようを学生が考えて発表しました。「足が速い」「身のこなしがいい」などが出ました。



運動神経はコーディネーション能力ともいい、それは「定位能力」「交換能力」「連結能力」「識別能力」「リズム能力」「バランス能力」の七つでできているそうです。

体を実際に動かすこともしました。まず、定位能力をはかってみました。ビニールテープを床にはって、手を前に出して足ぶみをする、いつものまにか、ずれていました。このような運動をしたりして、いろんな能力をはかりました。

(大和日菜記者 星野学園小5年)
いろんな運動ができる子ども時代

一時間目は、大人対子どもで、どちらが早く上手になるか、ということ、大人と子どもがマリオネットという運動をしました。結果は子どもの方が早くできるようになりました。これは、一度できたら、ずっとできる「学習の成立」が、子どもの方が早かったということだそうです。この時期を「ゴールデンエイジ」といって、いろいろな運動ができる時期だそうです。

最後に、どうしたら運動がうまくなるか、ということ、体前屈テストと相性のいいスクワットをしました。スクワットをすると、関節から曲げることを覚えるので、相性がいいのだそうです。これを「正の移転」といい、その逆を「負の移転」というそうです。(浅野璃子記者 杉下小6年)

川田先生インタビュー

運動に興味をもてほしかった

Q このテーマを選んだ理由は何かですか。

A 今、体力の低下が問題になっているので、運動に興味をもてほしいと思ったからです。

Q 大学で何を教えているのですか。

A 今は先生の養成をしています。小学校や幼稚園などでの教え方を教えています。

Q 子どものころ、好きだった教科は何ですか。

A ないなあ。好きだったのは魚つりかな。

Q 最近気になったことは何ですか。

A 全米オープンで準優勝した錦織圭選手です。理由は新しいスポーツの歴史をつくったからです。

Q 子ども大学の学生に一言、おねがいします。

A こういうところで勉強できるのはとても良いことなので、大きくなったら子ども大学の講師になってください。

(十重田妃菜記者 福原小6年、山口航記者 中央小6年)

学生の授業感想

藤小6年・大宮侘奈さん

Q 今日の授業はどこが楽しかったですか。

A スクワットをすると体がやわらかくなったような気がする。ことなどを、体を動かして学んだことです。

(深見美空記者 福原小5年)

寺尾小5年・都野守真乃さん

Q 今日の授業はどうでしたか。

A 楽しかった。

Q どんなところですか。

A 体を使って、かんたんな動きをしたことです。

(河野友里記者 寺尾小5年)

☆記者の授業感想

小島未来記者 福原小6年

運動神経が七つの能力で出来ていること、その一つの能力がなくなると、全部の能力のバランスがくずれてしまうことが分かりました。運動神経は九歳から十一歳くらいに良く発達するそうなので、今のうちに体力をつけておいた方がよいと思いました。

◇土田莉子記者 山田小5年

私が一番印象に残ったのは、となりの人とジャンケンをして、勝ったら手をにぎり、負けたら逃げるゲームです。最初はおかんたんだったけど、次にそれをぎやくにやったら、すごくむずかしかったです。とても楽しいじゆぎようでした。

◇浅野璃子記者 杉下小6年

私は今運動神経が伸びるじきといつことを初めて知りました。なので、自分にぴったりの運動を探してみたいと思いました。

パソコンを分解して3Rを学ぶ

石油は54年後になくなる



九月十三日土曜日、川越第一小学校体育館で、富士通株式会社の上野寛太郎氏による「パソコンを分解して学ぶ環境教育」という特別授業がありました。出席者は四年生一〇人、五年生五人、六年生三人の合計四六人。保護者二五人、中学生三人、兄弟五人でした。

一時間目は、地球温暖化の話から始まりました。地球温暖化とは、二酸化炭素ガスが増え、地球が温かくなってきたことです。二酸化炭素ガスが増えている原因は、ビルや家などの建築で、木が少なくなってきたこと、もう一つは、車、機械が発達して、排気ガスの成分である二酸化炭素ガスが増えていることです。

次に、限られた資源について教えてくださいました。まず先生が、前に用意された消しゴム、スナック菓子のふくろ、

服の中で、どれが石油で出来ているか、みんなに質問しました。正解は、みんな石油で出来ています。

次に、資源のこかつについてです。石油は、このまま使うと五四年後になくなります。天然ガスは六四年後、石炭は一二年後、ウランは九三年後になくなります。

次に、先生は、前のテーブルから赤いハンカチを取り出し、そのハンカチを、ちようネクタイにかえ、「3R」と書かれた黒い帽子をかぶりました。そして、白いハンカチを出して、マジックでステッキに変えました。そして「3Rおじさん」のかつこうになりました。

3Rというのは「リデュース」「リユース」「リサイクル」のことです。

「リデュース」は、ごみを減らしましょうということ。レジぶくろは一年に三〇〇億枚も使われていて、それを積み上げると、その高さはスペースシャトルの高度五〇〇キロメートルと同じです。また、レジぶくろ一枚に使われている石油は一八ミリリットルです。

「リユース」は、くり返し使うということ。例えば、「リサイクル」は、再び資源として利用することで、ごみを分別することが大事ということを学びました。

パソコンの部品を取り出す

(佐野寛太郎記者 高階小6年)

二時間目の授業では、二班に分かれて、実際にパソコンを分解しました。はじめにハードカバーをはずしたあと、DVDユニット、ドライブケース、ハードディスクなどを、ねじ回しなどを使って分解していきました。

パソコンの部品は、いらなくなると、

それぞれリサイクルされます。例えば、キーボードやファンは、うちわなどになります。また、ハードディスクはアルミニウムになり、プリント板から金がとれます。

このリサイクルとは、3Rの中の一つで、一つ目がリデュース(ごみを減らす)、二つ目がリユース(くり返し使う)、そして三つ目がリサイクル(形を変えて再利用)です。

この三つには大切な順番があり、リデュース、リユース、リサイクルは、エネルギーを使わない順にならなくて、

「リデュースを目指しましょう」と先生はおっしゃっていました。

最後に分解した部品を元にもどしてパソコンを組み立てました。

(浅野璃子記者 杉下小6年)



☆ 島山先生にインタビュー

趣味のマジックを使った

A Q なぜこのテーマにしたのですか。

地球の環境問題には、地球温暖化や生物多様性、資源のこかつという3つの柱があります。そのうちの資源について、資源を大事にすれば、くり

かえし使えるということ、みんなに伝えなかった。

Q なぜ3Rおじさんに変身したのですか。

A マジックが趣味で、それを使って、みんなに楽しく環境問題を伝えられたからです。

Q 子どものころの夢はなんでしたか。

A 天文学者です。未知の世界を研究したかったからです。

(川村弘希記者 中央小6年、深見美空記者 福原小5年)

☆ 記者の感想

◇ 太田優貴記者 大塚小4年
分解してみても、パソコンは石油や金でできている。いろいろな資源からできているんだなと思いました。これからは資源がなくならないように、3Rや省エネをしていきたいです。

◇ 浅野玲子記者 杉下小6年
ふだんはできないパソコンの分解ができてよかったです。私は今回、3Rという言葉を学びました。私はこれからこの3Rでできることはしようと思えました。

◇ 山口航記者 中央小6年
3Rが大事という話でしたが、ぼくは燃料がなくなると2Rになると聞いておどろきました。理由は、リデュース、リユースは燃料を使いませんが、リサイクルの時は物を分解するために燃料を使うからです。そして燃料は六〇年ほどで無くなってしまう。そうするとリサイクルはできなくなります。ぼくは燃料資源が無くなるために努力したいと思いました。